

令和7年度学校評価報告書

令和8年3月16日

北海道教育委員会教育長 様

北海道利尻高等学校長 鳥毛 浩 二

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 重点目標

<p>学校教育目標の実現に向け、教育活動全体を通じ、生徒の自律性、協働性、探究心を育成</p> <p>(1) 主体的な学びを促すとともに、知識・技能・思考力・継続力を育成</p> <p>(2) 多様性を認め、他者とながら、協働する力と挑戦する姿勢を育む</p> <p>(3) 生徒の希望と社会をつなげ、自律的なキャリア形成を支援する</p> <p>(4) 心身の健康を保ち、安全・安心な環境の中で社会とつながる力を育む</p> <p>(5) 地域社会や保護者との連携を強化し、開かれた信頼される学校づくりを推進</p> <p>(6) 学校教育目標等の共通理解に基づく協働体制の構築</p> <p>(7) 教員の専門性を向上させ、教育目標とビジョンの実現に貢献できる教員の育成</p>

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価及び改善方策等	学校関係者の評価及び意見、要望、改善方策等
主体的な学びを促すとともに、知識・技能・思考力・継続力を育成	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートや公開授業週間の実施により、授業改善に向けた取組は定着しつつある。生徒の学力向上につながるよう学習支援ツールを計画的に運用していきたい。 ・指導と評価の一体化を意識することで、生徒も明確に目標を設定し、個別最適な学びの充実と協働的な学びの実現に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報端末を活用することで、効率的な学習の実現や個に応じた学習の充実に努めてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、授業の振り返りや理解度を測るための単元テスト、パフォーマンステスト等を実施し、さまざまな観点から学習到達状況を見取り学力の定着を図る。 ・生徒の特性や能力、課題などを把握したうえで、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習指導、及び単元指導計画に基づく観点別学習状況の評価の充実を図る。 	
多様性を認め、他者とながら、協働する力と挑戦する姿勢を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間で指導方針の共有から始め、生徒にも随時伝えて行くことで、生徒が節度のある学校生活を過ごせるよう環境整備に努めた。 ・日々の授業の様子や教育相談等を通して、一人一人の状況を把握し、教員全員が共通理解を図りながら生徒と接することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校則についての生徒の意見は、非常に建設的であり、より実用的な改善案が出されている。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・校則の見直しに向けて、生徒からの改善策を基にクラス討議やPTA・学校運営協議会で意見を聴取し進める。 ・生徒理解と生徒指導に関する全体研修を行う等、教員間の共通理解に努め、認識のズレに留意し、引き続き丁寧な指導を行っていく。 ・スクールカウンセラーのカウンセリングにより、生徒の心情や困り感を共有することができた。次年度も継続して積極的に活用し、生徒の情報収集と共有に取り組む。 	
生徒の希望と社会をつなげ、自律的なキャリア形成	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解の深化、職業・社会への理解、意思決定・自己実現まで、3年間を通じて、学びと経験の蓄積による一貫性のある進路指導の実施に努めた。生徒の当事者意識を醸成し、自己のキャリア選択に責任感を持たせることについては、一定の成果があっ 	<ul style="list-style-type: none"> ・努力次第で難関大学に合格できる進路実績や、手厚いサポート体制があることを中学生や保護者にもっとアピールしていく必要がある。

を支援する	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が目指す進路は多様であり、受験指導、個別相談、情報提供などそれぞれに生徒個々の状況や背景を踏まえた手立てを講じられている。 	
改善 方策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の進路実現や進路指導体制について学校HPや学校説明会、保護者説明会等の機会を利用し、幅広く周知する。 ・本校における系統的な3年間のキャリア教育の中で育む「基礎的・汎用的能力」育成の視点を明確にし、共通認識を持って取り組めるようキャリアシラバスの作成・整備を進める。 ・キャリア教育を一過性の取組とせず、PDCAサイクルを意識した継続的な取組となるよう、全体の取組の位置づけや運営方法の見直しを図る。 	
心身の健康を 保ち、安全 ・安心な 環境の中 で社会と つながる 力を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・一日防災学校やいのちの教室など実施にあたり、自治体の担当者を招き講演等をしていただくことで、丁寧な指導・支援体制が構築されている。 ・全校生徒面談やアセスメントツールを活用し、生徒一人ひとりの早期における状況把握に努めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携を図り、生徒が安心安全に学べる環境づくりに努めている。
改善 方策	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体からの協力をいただき、担当者を招いた「いのちの教室」を次年度以降も継続して取り組む。 ・一日防災学校（防災訓練や防災講話）、全校生徒面談を通し、生徒の健康安全の意識を高める取組を継続して実施する。 	
地域社会 や保護者 との連携 を強化 し、開か れた信頼 される学 校づくり を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・利尻山登山や全島一周等を、地域資源を活用して実施することができた。また、関係機関と連携しながら安全面の体制を整えることができた。 ・情報発信は更新頻度を上げて発信し、保護者を含め地域に伝える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと教育の充実が高校魅力化に繋がっている。 ・島内の中学生が利尻高校へ進学したいと思うような魅力ある学校づくりをお願いしたい。
改善 方策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き、地域の協力を得ながらふるさと教育の充実に向けて取り組む。 ・次年度より学校運営協議会を設置し、熟議をとおしてより地域と連携した教育活動の充実に取り組む。 ・学校便りの発行回数、学校ホームページやSNSの更新頻度を見直し、生徒の様子や学校の取組を発信する機会を増やす。 	
学校教育 目標等の 共通理解 に基づく 協働体制 の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な時間管理と仕事の優先順位付けなど、個別面談を通して、業務の効率化を図るなど業務の整理を進めていくことが必要である。 ・一人ひとりが自分の役割を認識し責任を持って行動することが今後も求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ツールの提供する生徒の到達度に沿った教材データや生成AIを効果的に活用することで、業務の効率化を図り、子どもと直接関わる時間を確保できる。
改善 方策	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌再編を行い、より効率的な業務遂行に向けた組織体制の構築を図る。 ・各行事や分掌業務について、その都度、反省・見直すなど、業務の平準化や分掌・学年・委員会等における業務内容の精選に努める。 	
教員の専門性を 向上させ、 教育目標 とビジョン の実現に 貢献でき る教員	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高12年間の継続的・継続的な指導や支援を行うための基盤づくりのため、島内学校と連携を深めた。 ・探究活動の進め方や生徒への働きかけなど、教員側も再度確認しつつ、共有を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも「ふるさと教育」を大切に進めてほしい。

の育成 改善 方策	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修への積極的な参加、活用を促し、教員の資質能力の向上に努める。 ・外部講師の研修会を積極的に実施する。
公表方法	学校HPに掲載

- 添付資料
- 1) 令和7年度学校意識調査（生徒・保護者・教職員）
 - 2) 令和7年度学校評価（自己評価）
 - 3) 令和7年度学校評価（保護者）
 - 4) 令和7年度学校評価（学校関係者）